

中野区立第七中学校 令和5年度 学校経営方針

令和4年4月28日

【教育目標】

- 「すすんで学ぶ人になろう」 個に応じたきめ細やかな教育を実践して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、生徒自らがすすんで学ぼうとする態度を育てる
- 「心ゆたかな人になろう」 個に応じたきめ細やかな教育を実践して、思いやりの心や社会生活のルールを身に付けさせ、人間性豊かな人格をはぐくむ
- 「社会につくす人になろう」 個に応じたきめ細やかな教育を実践して、勤労と責任を重んじ自らが平和で豊かな社会をつくり出す一員となる自覚と態度を育てる

【基本方針】

中学校の3年間は、人生において大変影響を受けやすく、多くのことを吸収できる時期である。この時期に「粘り強さ」「よりよく生きようとする力」をつけさせることが学校の役割である。そのためには、「学び、知識を得ることによって豊かな人生を拓く」「人と人とのコミュニケーションが人として成長させる」「何事にも積極的に取り組める健康な心と体をもつ」ことが重要であると考え、学校経営の基本方針とする。

「笑顔とやる気いっぱいの七中」「生徒自らが常に鍛え続ける七中」を合言葉にし、自ら興味をもって学び、様々な人々と協働し、主体的に行動することで「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」学校教育を行う。また、保護者・地域の協力を得ながら、豊かな学びを実現することで「地域と歩む第七中学校」として生徒の育成に尽力していく。

【目指す学校像】

- 確かな学力を身に付け、学ぶ楽しさを感じることができる学校
- 活気が満ちあふれ、豊かな心を育む学校
- 健康と安全、個性が保障され、一人一人が大切にされる学校
- 生徒や保護者、地域からの信頼ある学校

【目指す生徒像】

- 自主的、自律的に行動できる生徒
- 自他共に大切にできる生徒
- 言葉を大切にし、明るく挨拶ができる生徒

【目指す教師像】

- 一人ひとりを信じて、生徒の可能性を伸ばす教師
- 共感的理解の視点を持ち、生徒と積極的にふれ合い育てる教師
- 自ら学び続け、切磋琢磨し、自己研鑽に励む教師
- 危機意識を常にもち、有機的に連携できる教師

【指導の重点】

<教科指導>

- 2学期制による学習指導計画や評価方法を工夫し、確かな学力を育成。土曜授業を年8回実施。
- 授業の導入では、目標や「めあて」を明確に提示することで、生徒に授業の見通しをもたせる。
- 授業のまとめでは、「振り返り」を行うことで、学びの成果を実感できる授業を展開。
- 数学科では習熟度別指導、英語科では少人数・習熟度別指導を実施。
- 小・単元テストやレポート、年4回の定期考査を利用した学習の振り返りと自己調整力の向上。
- 各教科での意図的な発表や話し合いによる話す活動、聞く活動の充実。また、目的に応じた情報の収集をまとめることによる書く活動の充実。
- 一人1台の端末の活用による協働学習を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- 放課後学習教室や長期休業中の学習教室等を実施し、補充的な学習を実施。
- 各教科での適切な学習課題の提示やニューノーマルの学習により、学習意欲の向上と学習習慣の定着。

<生活指導>

- 時間、身なり、言葉遣い、挨拶の4点を重点的に指導し、基本的な生活習慣を確立。
- 生徒、保護者に積極的に関わり、情報共有を密に行いながら教育相談の充実を図る。
- 全教職員・生徒がいじめに毅然とした態度で臨み、組織的な対応により未然防止、早期発見と解決を図る。
- セーフティ教室や情報モラル教育により、いじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないよう指導。
- 教育相談機能や関係諸機関との連携により、不登校の未然防止、早期発見と早期対応を図る。
- SOSの出し方に関する教育についての実施。組織的な相談体制の充実を図る。
- 安全指導や避難訓練、防災教育により、自助と共助の力を養う。
- 適切な指導を行いながら組織的な特別支援教室を運用。
- 「生活のきまり」について、よりよい学校生活や学びに向けた取組を主体的に取り組みよう、生徒会活動を充実。

<総合的な学習の時間>

- 総合的な学習の時間のテーマを「共に生きる」と定め、1年「地域を知る」、2年「社会を学ぶ」、3年「未来を考える」として、よりよい生き方を実践しようとする態度を育成。
- 校外学習のほか、事前・事後学習により、各学年のテーマに基づいて体験的に課題解決を図る学習を展開。

<進路指導・キャリア教育>

- 3年間を見通した進路指導計画による将来や進路について考えさせる指導。
- 地域での交流活動を通して、地域の一員としての自覚を向上。
- キャリア・パスポートによる自身の変容や成長を自己評価し、キャリア形成に生かす。

<特別活動、その他>

- 学級・学年活動、生徒会活動、学校行事を通して、好ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成。
- 朝読書の取組、図書紹介等により、読書活動の充実を図る。長期休業日も含めた、学校図書館の計画的な活用を推進。
- 「体力向上プログラム」を作成し年3回の「体力向上月間」を計画的に実施。
- 地域の資源の積極的な活用による教育活動を充実。
- 特別支援学級や復籍制度による直接・間接的交流による障害者理解の推進。
- 「中野区子供の権利に関する条例」を周知し、生徒会活動を通して話し合い、考えや思いを表明できる機会を設定。
- 保幼小中連携教育として、オープンキャンパス、各学校行事の連携、教職員や児童・生徒の連携等により小中連携を実施。

<特色ある教育活動>

- 「障害者理解」を学校2020レガシーとして設定。通常の学級と特別支援学級の教員同士の交流を活発にし、特別支援教育を生活指導に生かし、生徒の障害者理解を深める。
- 地域活動への積極的な参加を促し、活動の楽しさを知り、ボランティアマインドを育成する。

<特別支援学級>

- 障害に即した個別指導計画に基づき、能力や発達段階に応じた目標の設定による教育活動を行い、自己肯定感を高めさせ、自立と社会参加を目指す。
- 体験的な学習を通し、成就感や達成感を味わわせる。
- 「身体の動き」の指導により運動・動作の改善及び体力の向上を図る。
- 状況に応じた言語活動を通してコミュニケーション能力を培う。
- 特別支援学級と通常の学級の教員同士の交流を活発にし、生徒間での交流及び共同学習を推進。また、他校の特別支援学級との交流及び共同学習の推進。

【本校の研究】

共生社会の実践に向けたインクルーシブ教育の推進 ～ 特別支援教育による校内支援体制の充実 ～